

"ISWI Workshop in Egypt" (in Japanese)

by Prof. Kazuo Shiokawa

Division II, Solar-Terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University

Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya, Aichi, 464-8601, Japan

TEL +81-52-747-6419 FAX +81-52-747-6323

Original article (see next page) from: **STEL Newsletter, No. 58, March 2011.**

It is partially translated below – roughly the first paragraph of the article. The Japanese text was translated into English text by G. Maeda (ICSWSE) on 21 August 2014, for use in the ISWI Newsletter (Volume 6, Number 41).

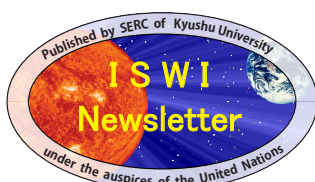
The First Workshop on ISWI took place on the campus of Helwan University in the suburbs of Cairo, Egypt, during 6-10 November 2010. ISWI is being promoted under the United Nations Basic Space Science (UNBSS) in the time frame of 2010-2012. In Japan, ISWI is being promoted by the STPP Subcommittee of the Science Council of Japan [<http://www.scj.go.jp/>]. One key annual event of ISWI is the annual international workshop. For this workshop in Egypt, focus was put upon African participation, and over 100 persons participated in this Cairo workshop.

Prominent participating countries from Africa were: *Egypt, Ethiopia, Kenya, Nigeria, Mozambique, Zambia, Tanzania, Sudan, Ivory Coast, Cameroon, Algeria, Congo, Burkina Faso, Morocco, and Niger.*

From outside of Africa: *Japan, Peru, Brazil, Malaysia, Indonesia, Australia, Philippines, India, Cypress, Vietnam, Italy, France, Korea,* to name a few.

Workshop sponsors were (1) the United Nations, (2) NASA, and (3) JAXA; however there was also major financial support from SERC (Translator's note: this is now ICSWSE, or *International Center for Space Weather Science and Education*, of Kyushu University, Japan.)

End of partial translation



This pdf circulated in
Volume 6, Number 041,
on 01 Sept 2014.

さいえんすトラヴェラー

Science Traveler

エジプトの ISWI 会議

塩川 和夫（電磁気圏環境部門）

2010年11月6－10日にエジプト・カイロ郊外のヘルワン大学で、国際宇宙天気イニシアティブの第1回ワークショップ(The first workshop on International Space Weather Initiative : ISWI)が開催されました。ISWIは、国連の基礎宇宙科学プログラム(The United Nations Basic Space Science Initiative - UNBSS)が2010－2012年に推進するプログラムで、国内でのとりまとめは日本学術会議のSTPP小委員会が行っています。今回の会議はこのプログラムの中で毎年開催されるワークショップで、主にアフリカ諸国の研究者を中心として、100人以上の参加者がありました。主な参加国は、アフリカでは、エジプト、エチオピア、ケニア、ナイジェリア、モザンビーク、ザンビア、タンザニア、スーダン、コートジボワール、カメルーン、アルジェリア、コンゴ、ブルキナファソ、モロッコ、ニジェール、またアフリカ以外でも、日本、米国をはじめとして、ペルー、ブラジル、マレーシア、インドネシア、オーストラリア、フィリピン、インド、キプロス、ベトナム、イタリア、フランス、韓国など、多くの国から参加がありました。国連、NASA、JAXAがスポンサーですが、九州大学宇宙空環境研究センター(SERC)も大きな予算でサポートしています。

宇宙天気の研究において、アフリカ地域はこれまで研究者の人口が多くない地域であり、地上観測ネットワークの展開も遅れていました。しかし観測が行われていない、ということは観測すれば新しいことが分かる未知の領域である、ということであり、近年、日本では九州大学SERCの磁力計ネットワーク(MAGDAS)プロジェクトや、京都大学の太陽望遠鏡(CHAIN)プロジェクトなど、アフリカにおける観測を重要視したプロジェクトが推進されています。また欧米もアフリカでの観測に注目しており、磁力計、VLF電波受信器、GPS受信器などの機器が、現地の研究機関と共同で設置・運用され始めています。今回の会議では、太陽・電磁気圏の基調講演に続いて、これらの各観測プロジェクトに関する紹介が続き、3日目からは、観測プロジェクトごとに分科会に分かれて、詳細な共同研究が議論されました。著者は、初日に電離圏に関する基調講演、2日目に著者の研究グループが行っている超高層大気イメージングシステム(OMTIs)の紹介を行いました。

アフリカを含めた発展途上国における研究支援が太陽地球系科学の分野でも行われつつあります。発展途上国での観測には、電源・ネットワークの

不安定さ、治安・政情の不安定さという難しさがあります。また、現地の研究者は必ずしも太陽地球系科学の専門家であるわけではなく、得られたデータを用いて本当に対等な関係で共同研究を行うまでには、現地の若手研究者を育成するという課題もあり、まだ長い時間と努力が必要だと思われます。この会議に代表されるISWIの活動は、アフリカにおける太陽地球系科学の発展に大きく寄与しています。



ISWI 会議の様子。opening ceremony では、国連・NASA・JAXA の代表、ヘルワン大学学長などが壇上であいさつし、大勢の報道陣が詰めかけた。